

8月の空を見上げて

仲嶺 真弓

2020年は、終戦から75年を迎えます。絶対に忘れてはいけない、繰り返してはいけない戦争の歴史。夏が来るたびに心に刻みなおし、平和への思いを祈り、願います。

1945年8月6日 午前8時15分 広島に原子爆弾投下

同年8月9日 午前11時2分 長崎に原子爆弾投下

広島ではおよそ16万6000人、長崎ではおよそ7万5000人もの尊い命を一瞬にして失いました。原爆を投下される以前には、同年3月26日～6月23日 3ヶ月にわたる長い沖縄戦があり、ここ大阪でも3月～8月にかけて8回もの空襲があったことが歴史に記されています。その他日本各地でも爆撃はあり、はかり知れない尊い命が失われた末に、1945年8月15日 終戦の日をむかえました。戦争の時代を生きた人々の気持ちに思いを馳せても想像しきれません。けれど戦争があったという事実だけは戦後生まれの私たちもこれからの時代を生きる子どもたちに語り継いでいかなければならない。人と人とが起こしてしまった戦争の歴史は決して記憶から消してはいけない。そんなことを思いながら、毎年見上げる8月の空です。

今年はコロナ禍のこの現状が、全世界対コロナウイルスとの戦争だと言う人もいました。ある意味それも否めません。日々のニュースは、コロナウイルス感染症拡大の一途をたどるばかり。近隣からの感染報告も耳にし、毎日の園生活の見守りにもより緊張感が走ります。4月の緊急事態宣言以降、コロナウイルス感染症とどう向き合い対処していくか考え続けてきたこの数か月。不安に思う保護者の眩きにもできる限り耳を傾けてきました。中には匿名で電話質問された方もいました。不安に思うことを話してもらえることはありがたいと思いつつ、でも顔が見みえないやりとりは何とも心地いいものではありませんでした。その方の質問は、給食のスプーンやお箸は、なぜ個人持ちでないのか？ 不衛生ではないのか？ ということでした。電話を受けた職員は、誠実に応えたつもりだけど、自分のあのいい方で伝わったろうか…、せめて名乗ってもらえれば、伝えきれなかったことも補足できたのに…と心配していました。子どもたちが園で使用しているスプーンやお箸は、使用後は給食室で、手洗い後、高温の湯、強い水圧の食洗機にかけ、給食担当職員の目で洗い残しがないか確認しながら各クラスの食器カゴに必要個数を数え入れ、乾燥機に収納。その後、高温乾燥で殺菌し保管しています。なので、各家庭から持参されたものを使用するより、衛生的なので安心してほしいと思います。電話のやり取りで不安は解消されていることを願いつつ、質問してもらえたことで、職員間でも再認識できたことに感謝です。こういう一つひとつの質問や、眩きと真摯に向き合い考えることが、今も継続して開園し続けられている要因の一つなのだと思います。いろんな視点からからの意見が大きな気付きになることもあるので、これからもぜひ顔が見えるやり取りをお願いします。

保育園は集団生活の場です。多くの人が集えることでたくさんの気付きがあり、子どもも大人も育ちあえることが一番の利点です。反面、流行性の病気については、人の出入りが多いことと比例して感染のリスクは高くなります。だからこそ、お互いのエチケット（つばさっ子表紙に具体的に記載。つばさっ子最終ページに大阪府の指針も参考にしてください。）は守り、日頃から健康な体づくりを重視し、それぞれの家庭の体調や状況の情報共有をしながら、日常の生活を大切にしたいと思います。

懇談会や日々の会話では、「園で自分が、1人目の感染者になるのは嫌だよね」という言葉をよく耳にします。けれど、どれだけ感染予防していても、いつ、どこで、誰が感染してもおかしくない状況であることは忘れずに、コロナウイルス感染症を恐れるだけでなく、共存していくための対処方法を一つでも多くみつめていきたいと思っています。